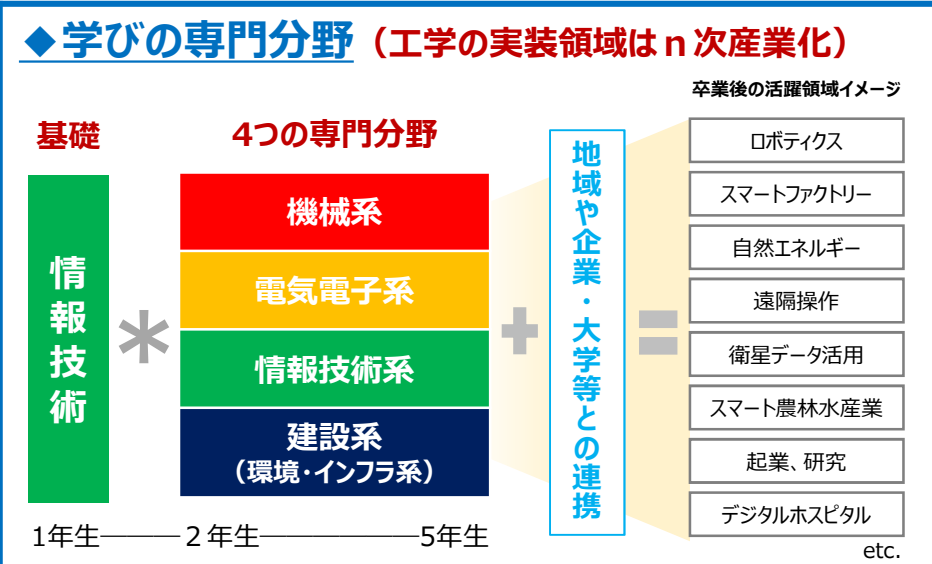


■ 構想骨子（素案）概要①（ひとづくりとしての学びの方向性）

- 新高専を軸に、**人材育成→地域への技術実装→技術への関心・憧れ**、という好循環の創出に挑む
- **情報技術*各産業分野**に通ずる学びに加え、多様な学びの機会を提供し、実践力も育む
- **1学科4コース制**で、1年次は混成学級、2年次からコース選択という学びの体系



◆ 学びの方向性

情報技術から
 学びの分野を考えてみる

- データサイエンス
データに基づく課題発見力
- プログラミング
考え方、アルゴリズム、最適化
- 価値の創造
AIによる自動化、データ活用

各産業分野
 に通じる学び、スキル

- ものづくり分野
ロボティクス、IoTなど
- インフラを支える分野
グリーンインフラ、防災技術等
- その他の分野
他の教育機関等との連携

滋賀・びわ湖
 という地域ならではの学び

- 人と自然に寄り添う技術
Society5.0の先の社会
- 環境へのこだわり
CO2ネットゼロをかなえる技術
- 進取の気性
学び続ける姿勢、行動意欲

学びの方向性

- 「情報技術」を柱に、課題を発見し、価値を生み出す力を養成
- キャリアを考えた育成コースで、多様かつ柔軟な選択肢を提供
- 人と自然に寄り添い、課題の解決に挑む技術者を育成

◆ 学びの拡がり

課外授業、留学等

5年という時間を活かす経験

- 各種コンテストへの挑戦
- 海外留学、文化交流
- 部活動、地域活動

インターンシップ等

地域・社会へのアプローチ

- 地域課題を実体験
- 地元企業と出会う機会
- より現実に即した実践

卒業研究

技術やスキルの確立・応用

- ものづくり基礎力の確立
- 起業へのチャレンジ
- 就職、進学に向けた研究

リベラルアーツ

より深くものを考える力、教養

- 年齢に即した文系科目
- コミュニケーション力
- 世界的課題への眼差し

- 入学定員は120名、公立大学法人滋賀県立大学による運営を想定
- 高専に技術者交流・育成のハブ機能を備えることで、地域とともに高専自体もアップデート。
- 設置場所は、用地の広さや周辺環境、連携先等を勘案して来夏に決定、令和9年春の開校を目指す。

◆ 学校規模について

入学定員120名（3学級）、学校全体で600名
 （志願倍率2倍程度を想定）

教員数：約50名、職員数（事務・技術）：約40名

◆ 設置主体について

より柔軟な学校運営を期待し、県唯一の公立大学法人である「公立大学法人滋賀県立大学」を優先的に検討

◆ 経費のイメージおよび場所の要件(案)

＜施設整備費＞ （寮を除く） 単位：百万円

A：施設整備費	7,200
B：設計監理費	360
C：その他経費	2,440
合計（A+B+C）	10,000

＜運営費＞ 単位：百万円

A：収入	200
B：支出	900
収支差額（A-B）	700

※全国類似高専における平均値から算出

＜場所の要件＞ 比較項目例

校地要件	土地の規模 土地の法令上の要件 土地の安全性
周辺要件	学びの場所としての魅力 周辺の理解 教育上のふさわしさ
連携要件	他の教育機関、産業界、 地域との連携
コスト要件	整備・運営費の低減
交通要件	通学の容易性

◆ 高専を技術者交流・育成のハブに

例えば・・・

- 企業の学びへの参画、大学連携講座等
- 技術系のリカレント教育
- 企業との共同研究、課題解決コンテストなど
- 技術系ならではの図書館デザイン
- 小中学生への「ものづくり体験」

…etc.

➔ 技術をテーマとした「広場」をつくることで、
 地域はもちろん、高専自体もアップデート



◆ 今後のスケジュール（PFI手法を導入）

